

奈良市まちづくり市民会議（第5回）概要記録

■日 時： 平成22年1月15日（金）午後7時00分～午後9時00分

■場 所： 奈良市役所 中央棟6階 正庁

■プログラム：

1. 開会
2. 奈良市勢の概要について（事務局説明）
3. グループワーク（分科会ごと）
 - （1）『奈良市のテーマ別将来都市像づくり（3）』
 - （2）各分科会の代表の選出
4. 閉会

■会議資料：

- ①奈良市勢の概要について（パワーポイント資料）
- ②各委員が考えたテーマ別将来像
- ③奈良市まちづくり市民会議（第5回）のふりかえり

※②は事前配布、①、③は受付時に配布

■出席者：

【市民公募委員】46名（欠席6名）

赤尾 隆、アダルシュ シャルマ、阿部 智子、井上 雅由、上野 登統、榎本 正範、岡本 胤継、奥村 麻希子、北浦 由香、木村 宥子、熊野 磯一、小島 道子、小西 完治、笹部 和男、佐藤 正幸、サマン ペレラ、澤崎 嘉造、四反田 喬典、新堂 順規、高松 典正、田北 ますみ、武村 俊宏、多田 充朗、田中 保夫、谷 幸三、反田 博俊、友田 達郎、中川 徹、中西 輝、橋本 光男、長谷川 庸司、畑中 忠司、濱 朝子、濱 恵介、春田 稔、松永 洋介、松森 重博、宮本 郁江、村田 勝彦、元島 満義、森口 哲也、山本 素世、山本 善徳、吉田 俊夫、寮 美千子、渡邊 新一

【事務局】7名（企画部 部長 森本 恭平
企画政策課 課長 吉村 武富、主幹 田中 利也、主幹 奥田 喜司、主任 木村 和弘、引野 あずみ、山岸 公彦）

【ファシリテーター】6名（山崎 亮、西上 ありさ、醍醐 孝典、六本木 晃夫、岡田 実成、桐山 法子）

■傍聴者：0名



■会議の概要：

1. 開会

司会（企画政策課 吉村）より説明。

○委員の出欠について：開催時点では、委員 52 名中 39 名が出席。

○各分科会のグループワークへの市職員の参加について：

市職員の同席を希望する分科会に限り、聞き役として事務局職員がテーブルの近くに着席させていただく。職員の同席を希望する場合は、グループワークの前に、分科会のメンバー全員の同意を得たうえで、ファシリテーターを通して事務局に連絡していただきたい。

なお、同席する市職員に情報提供を要望された場合は、正確な情報を提供するため、原則として持ち帰り、次回会議までに回答する。

2. 奈良市勢の概要について（事務局説明）

奈良市勢の概要について、事務局（企画部 森本）がパワーポイントを用いて説明。

⇒ <会議資料：①奈良市勢の概要について（パワーポイント資料）>参照。

【説明の概要】

○説明にあたって：

時間の都合もあるため、質問・意見などは、「ふりかえりシート」やメール、メモなどで行っていただきたい。

○基本構想の法令根拠等：

憲法では、第 92 条から 95 条に地方自治の条項が設けられ、第 92 条の地方自治の本旨を具体化するため、昭和 22 年に地方自治法が制定されている。昭和 44 年には、地方自治法第 2 条第 4 項で、自治体における各種長期計画・構想の最上位の計画として、「基本構想」についての規定が追加された。

また憲法第 95 条で、特別法の制定について定められており、奈良市では、昭和 25 年に住民投票の結果、奈良国際文化観光都市建設法を制定し、その後「国際文化観光都市」を標榜している。

○奈良市の位置：

本市は、紀伊半島の中央にあり、奈良県の北端に位置している。

○奈良市の位置・地勢：

市域の西側約 3 分の 1 の地域は、交通網が整備されており、京都や大阪への時間距離が極めて近く、多くの人々が居住している。しかし残りの約 3 分の 2 の地域は、鉄道網は整備されておらず、主要な幹線道路もあまり整えられていない。このように地域によって交通利便性などで、格差が生じている。

○奈良市の概要：

明治 31 年に市制が施行された後、周辺の町村を合併して市域が拡大していった。平成 17 年の合併では、月ヶ瀬・都祁の 2 地区が市域に入り、平成 20 年 1 月 1 日現在、面積は約 276 km²、人口は約 37 万人となっている。

○奈良市の自然環境：

奈良市は緑が多いと感じる人が多く、統計では 1 人当たり公園面積が 20 m²となっ

ているが、これらは国定公園や県立奈良公園、平城宮跡歴史公園などによって担保されている。市の西側については都市公園整備を求められることもあり、また東側は林野や田畑の多い地勢である。

○大和都市計画(奈良国際文化観光都市建設計画)用途地域図：

着色のある市街化区域で、ここに多くの人々が居住している。中央の白い部分は平城山丘陵から平城宮跡で、土地利用が規制されている。

○地区別人口、年少・老年人口構成比(平成21年1月現在)：

パワーポイントの地区の大きさは、実際の大きさに即したのではなく模式的なものだが、地区毎に人口と年齢構成を整理している。東部の地区、狭川・東里・大柳生・柳生・月ヶ瀬などで年少人口が少なく、老年人口が多くなっており、少子高齢化が進行している。また特に目を引くのが右京、登美ヶ丘地区で、私達は、これらの地区は比較的若い年齢層が多いと思っているが、実際は高齢化が進行している状況が見て取れる。

○人口の推移：

平成17年までの表だが、右肩あがりの人口推移になっている。

○一般会計歳入予算(当初)の推移：

近年6年間の推移を表に整理したものである。

○市税収入(当初予算額)の推移：

一般会計歳入予算(当初)のうち、自主財源の中心である市税収入の内訳は、表の通りとなっている。

○家計にたとえたら：

表は平成21年度一般会計予算 歳入・歳出の構造を家計に例えて表示したものである。収入の自主財源部分を合計すると約53%になる。一方支出の義務的経費の合計は52.2%で、硬直した財政状況にあるといえる。

○総合計画の策定経緯：

昭和44年の法改正に従い、昭和47,48年に総合計画として基本構想や基本計画を策定しているが、市議会の議決を得ることのないものであった。その後、昭和56年度にはじめて基本計画を策定し、第2次、第3次の現行に至っている。

そしてこのたび、第4次の総合計画の策定作業を進めている。

○過去の総合計画の概要：

第1次の将来都市像は、「未来にのびゆく国際文化観光都市—伝統と調和のとれた新しい住みよいまちづくり—」、第2次のキーワードは世界都市、現行の第3次は「世界に学び、ともに歩むまち—なら」となっている。

それぞれ、将来都市像に基づき、基本方向や施策の大綱を定めている。

○奈良市都市経営戦略会議からの報告：

平成18年度から、市長の諮問機関として都市経営戦略会議を設置しており、戦略会議からは、種々の提言や報告をいただいている。これらの提言については、奈良市のホームページにて公開している。

○「奈良市次期総合計画策定の方針に関する報告書」の主な内容：

平城遷都 1300 年以後の都市のイメージを作成するということと、次期総合計画の策定において考慮すべき 5 点について、提言をいただいている。

○基礎調査ホームページ：

総合計画策定にあたり、昨年度に基礎調査を行った。パワーポイントは、基礎調査の結果を紹介するホームページの画面である。基礎調査では、各種上位計画・関連計画の整理や、市民アンケート、中学生アンケート、人口推計等を行った。これらの結果についてはホームページで閲覧やダウンロードが可能である。

○人口推計：

基礎調査で行った人口推計によると、今後、人口は減少し続けることが予測されている。実際、平成 20 年の人口は約 37 万人であったが、平成 22 年 1 月 1 日現在、約 36.8 万人で、約 2 年間で約 2,000 人減少している。推計では、平成 32 年に約 34 万人になる。今後、どのようにして定住を促進し、人口を増やしていくかが大きな課題で、皆さんのお知恵を拝借したい。

○審議会の法令根拠：

総合計画の策定の体制として、地方自治法に定める附属機関「総合計画審議会」がある。

○総合計画の策定体制：

皆さんが現在取り組まれている、まちづくり市民会議のほか、NPO、自治会・自治連合会など、約 37 万人いる市民の方々から、様々なご意見をいただき、また、総合計画審議会でもご審議いただく。最終的には、市議会の議決を得て、総合計画を策定したいと考えている。

○その他資料について：

今回説明できなかった各種統計資料や、他市での総合計画の冊子や策定状況資料などは、企画政策課で保管し閲覧をしていただけるようにしているので、利用してほしい。

3. グループワーク（分科会ごと）

（1）『奈良市のテーマ別将来都市像づくり（3）』

【グループワーク】

- ・前回までの話し合いや、各委員が作成した「テーマ別将来像」を踏まえながら、テーマ別将来像の「タイトル」「テーマ別将来像を考えた背景」「このテーマに関して、私たちの考える奈良市の将来像」について話し合い。

⇒ <会議資料：②各委員が考えたテーマ別将来像>参照。

グループファシリテーターが、話し合いの概要を模造紙に整理。

⇒ <グループワークの記録>参照。

なお、次の分科会の話し合いには、職員が同席した。

第 1 分科会：企画政策課 田中（途中から）

第 4 分科会：企画政策課 奥田

第 5 分科会：企画政策課 吉村

（2）各分科会の代表の選出

【グループワーク】

- ・分科会ごとに話し合い、分科会の代表者を選出。

4. 閉会

○分科会代表の確認：

- ・事務局（企画政策課 引野）が、各分科会の代表者決定状況を確認し、代表者を紹介。

【第1分科会】未定

【第2分科会】未定

【第3分科会】代表：畑中 忠司， 副代表：寮 美千子，友田 達郎

【第4分科会】代表：笹部 和男

【第5分科会】代表：松永 洋介

【第6分科会】代表：村田 勝彦

○会議閉会にあたって：

- ・司会(企画政策課 吉村)から、次回開催予定日、「ふりかえりシート」の記入・提出期限[平成22年1月20日(水)]を連絡。

【次回開催予定】

- ・日時：平成22年2月5日（金）午後7時～
- ・場所：奈良市役所 中央棟6階 正庁

【凡例】
 ●背景
 ◆実現方法
 ★具体策

第1分科会 生きやすいまちづくり

【参加者】委員 井上 雅由、木村 宥子、熊野 磯一 [田中 浩、本間 香貴、吉住 秀]
 TF 西上 ありさ 市職員同席 田中 利也 (途中から)

世界に向けた情報発信

★お金はなくとも市民と熱く燃える行政へ
 (あらゆる交流のための情報提供を支援)

- 世界中の「平和」をベースにするまちと文化、経済、人、その他あらゆる情報交換と交流
- 奈良の情報を世界に向けて発信 (実質的な平和のまち)

平和をベースにつないでいく (ネットワークづくり)

- ◆交流や観光にむすびつけていく
- ★平和をテーマにしたファッション (ファッションなど異分野とつなげる)

- みんなが暮らしやすいまち
- 恒久の願い
- 軍備費(戦争)は浪費・ムダ
- 戦争=戦の歴史
- 人を殺す訓練をするのはムダ
- 戦争は最大の環境破壊
- 軍事関連にお金をつかわない
- 市は協力しないと決める→どこからもせめられない
- ◆世界中武器なくす まず奈良から

<奈良市>とは何か?

- 個人の集合体
- 1人1人が幸せになることが大切
- 幸せな個人がたくさん集まるまちってどんなまち?

みんなが幸せになるまち
 個人 (ひとり一人)
 根底にある

平和のまち (平和の似合うまち)

- 「平和が似合うまち 奈良」を一番の売りにする。
- 命の尊重
- これらを実行するために、教育等も新しい形で発展させる → 人材育成につながる
- ◆人材育成につなげていく

市民自ら行動するまち

参画・共(協)働

- ◆行政と協働・協力 ●共同・協力・共生
- ◆自己責任の徹底 健康学習—医療長寿
- 自分のことだけを考えたらダメ
- ◆奉仕の精神の醸成
- ◆公共のサービスを担う
- ◆租・庸・調(金・物・働)で貢献する

◆行政の区割りをこえた保育・学校を考えると。海外の例は?
 ★小さな地域での保育を考えられないか

安全安心で命を大切にすまち

子育て

- 子育て支援
- 今生まれてる命を大切に
- 生涯学習の充実
- 学校教育 (幼小中高)
- ★外国人との言葉の教室
- ★ボランティア活動への参加

医療福祉

- 健康で長生き
- 医療・教育無料
- 医療体制 (救急)
- ◆高齢者も働く意欲をつくる。(昼間のゴルフはもったいない。)

★老人、子ども、障がい者が一緒にいられる場所づくり → 新しいつながりと財政縮小につながるだろう

多様性のある教育

- ★保育の場がもっと多様性を認める。

★防犯体制
 ★防犯にお金をかける必要がないよう → 財政縮小

市民も世界も情報ネットワーク

- 全てのことについて知恵の交換を。国内外を問わずそのためのネットワーク作りを

壁を壊す関係づくり

- ◆医療・教育・最低食糧 無料

【その他意見】 ●景観(緑地) ●自然環境充実 ◆自然を大事に ◆観光客を呼び寄せる ◆健全な消費生活 ◆納税(高齢になっても収入を得る) ◆若い人(担税力のある)まちに誘導 ●雇用の充実 ●産業の活性化 ●道路整備 ●下水道整備 ●住環境の整備 ●産業の振興 ◆まちのことを勉強し理解する ◆自分の生活を安定楽しむ ◆人の痛みを判る人間 ◆自分自身が社会に迷惑をかけない ◆廃棄物をリサイクルをルール従い処理する

第2分科会 魅力を活かすまちづくり

【参加者】委員 上野 登統、榎本 正範、小西 完治、澤崎 嘉造、谷 幸三、中川 徹、橋本 光男、濱 朝子、春田 稔、山本 善徳 TF 桐山 法子

今までの話し合いと各委員が考えたテーマ別将来像のまとめ

①奈良市の主な魅力

- 1300年を超えて蓄積されてきた歴史
- 豊かな自然環境（歴史に支えられた自然）
例：風土・伝統行事・世界遺産・歴史的建造物・景観・自然（春日原始林・奈良公園等）



魅力は十分持っている（資源豊富）
奈良だけのものではなく、日本、世界にとっても貴重な財産

②奈良市の魅力を取り巻く問題

- 時代の流れとともに、失われつつあるものもある
例：文化財、地域に残る祭り
街並み（駐車場化）
絵図に残るため池・川など
- 魅力（資源）がスポット的（まち全体に活かされていない）
例：歴史的な街並みがある一方、商業看板が多く景観が悪い
- 魅力を見てもらおう基盤が整っていない
例：交通渋滞が起こっている

[主な要因]



今ある魅力を当たり前と感じ、恩恵として感じていない！

③今後求められること

- 魅力を再確認、再発見する
例：古い文献等や専門家・外国人などの目を通して、資源を再確認・再発見する。
歴史上のまちづくり（1300年前の都市計画）などから、昔の人々がまちに託した思い、計画を学ぶ
- 魅力をわかりやすく伝える
見せ方を工夫する 上手くアピールする
特に、次代を担う子ども達に伝えていくことが重要
例：物語性をもって伝える
子どもに教育する
紹介看板・ビューポイント
自然の観察の場
歴史文化をわかりやすく紹介する施設
- 魅力を保全し、活用していく（まちづくり、まちのこし、REデザイン）
例：平城宮の復元
新薬師寺など発掘
（復元・発掘・活用の仕方にも留意が必要！どのような活用が奈良らしいのか？）
- 周辺的环境も含め、まち全体の魅力を向上させていく
例：バッファゾーンも含めて保全
緑豊かなまち（街路樹・各戸緑化）
歩いて安全・快適なまち（通行路）
宅地開発・土地利用・建物の規制
景観に配慮した建物の建設誘導
商業電気による光をやめる

④奈良市の将来像

- 奈良のまちの姿
 - ・現在の歴史・自然資源が大切に保全されている
 - ・奈良市全体が魅力的なまちになっている。（まち全体が観光の舞台）
 - ・奈良の歴史と文化をベースとした国際交流をしている。（歴史が学べるまち）
 - ・歴史を今に、今を未来に。時空をこえたまちがつくられ続ける。
 - ・“アイコン”のあるまち（鹿・大仏以外）
- 奈良市民の姿
 - ・奈良の魅力を生活の中で実感している。（ならの歴史を理解し、恩恵を感じている）
 - ・奈良をいつくしみ、「奈良市に住むこと」「奈良市で働くこと」に誇りをもっている。
 - ・奈良の魅力を、次の世代に伝えていきたいと思っている。
 - ・純粋な日本人の心をもっている。（安らぎをもって暮らす、もてなす心をもっている。）
- 奈良市外の人達の姿
 - ・奈良市に来ると、安らぎを感じる。
 - ・奈良の魅力が認知し、憧れをもっている。「奈良に行きたい」「奈良に泊まりたい」「奈良に住みたい」という気持ち。

《前回主な意見方向性》

- ・魅力を伝えることが大切。アイデアも提案したい
- ・奈良らしい保全・活用のあり方は？

《将来像キーワード》

時空を超えたまち、恩恵・誇り、日本人の心（安らぎ・もてなしの心）、憧れ

第3分科会 活気のあるまちづくり

【参加者】委員 赤尾 隆、阿部 智子、佐藤 正幸、新堂 順規、友田 達郎、長谷川 庸司、畑中 忠司、
松森 重博、吉田 俊夫、寮 美千子 TF 岡田 実成

タイトル

背景

将来像？ 方針

目標

- ・「観光都市 奈良」の再興
- ・活気のあるまちづくり
- ・観光を産業化する
- ・ベッドタウンから、観光客・若者の集う「国際文化観光都市」と「工房エコタウン」へ

方向

- ・「本物の観光産業」の創生(1)
- ・観光産業の戦略展開で活気ある奈良のまちづくりを目指す
- ・地域所得移入比率向上政策(2)
- ・観光産業を中心としたビジネスモデルの創造

キーワード
本物・戦略・ビジネスモデル・ガイド

1つの案
NARRATIVE
観光ならティブプラン
—ビジネスモデルの創造—
・ならティブ ・奈良

NARRATIVE ならティブ
物語性・語る・伝える **最終で決定**

- ・ベッドタウン中心(人)
- ・工業等の産業は無理→環境的にも

- ・奈良市の産業→観光しかないのでは

観光

- ・遺産は本物

- ・(市民の)遊ぶところがない
- ・観光業は本物でない
- ・お金が落ちない!

観光の産業化が必要!

観光ツーリズムの確立(3人)
観光ツアーの充実プラン

ビジネスモデル

ガイド key

プロのガイド(3人)養成

- ・外国語ガイドの強化、養成
- 国・県がやる!

DO!

他にない戦略(2人)プラン →? ビジネスモデル

発信

- ・世界に向けた「いのりの奈良」の発信
- ・保有知識、財産の県外、国外への売り込み(3人)
- もっと外国人! 国際

・ツアーセット PLAN

・ゴールドカード(無料パス) シルバーカード(修業認定証)

・体験プログラムモデル

・物語性

・PLAN →PDCAへ PDCAプラン(2人)

・情報・インターネット

ベースづくり

エコタウン、モデルタウン(2人)

- ・工芸村等新しいベースを
- ・観光化と市民が住みやすい奈良を求めて
- ・学校、大学

・新交通プラン サポートガイド

・エコ交通

夜

多様な宿泊パターン

夜PLAN

食

- ・食べる場所がない(イベントはあっても)
- ・食文化
- ・夜→屋台村
- ・朝を考える→朝市

遊

- ・ドリームランドの再興→若者
- ・遊び

若者

- ・奈良を知らなさ過ぎる → 知れば来る!
- 若者プログラムを!

全体にエコ!

観光の非経済化を抑える! →

- ・観光公害の排除
- ・環境の保全

宿泊

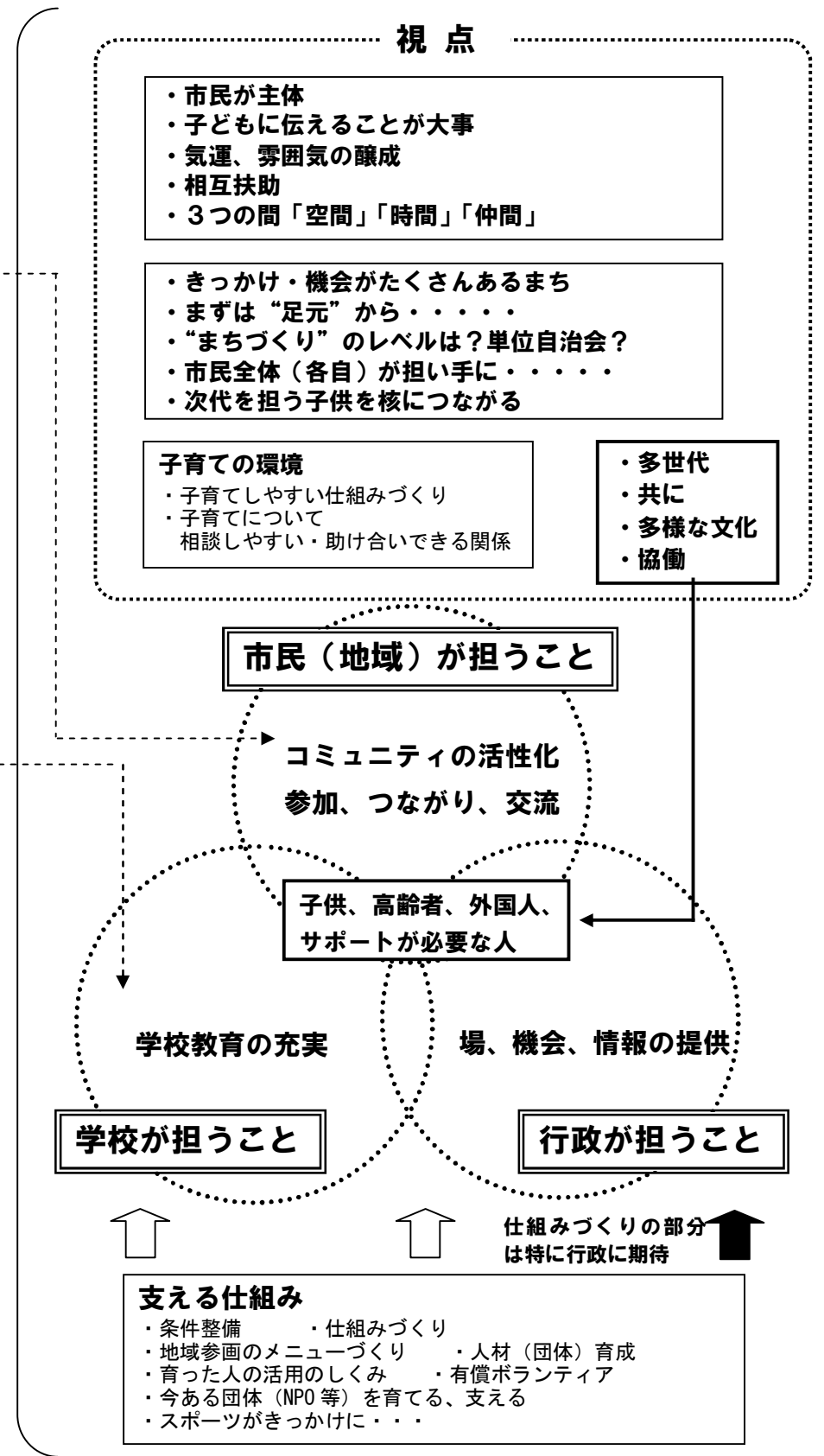
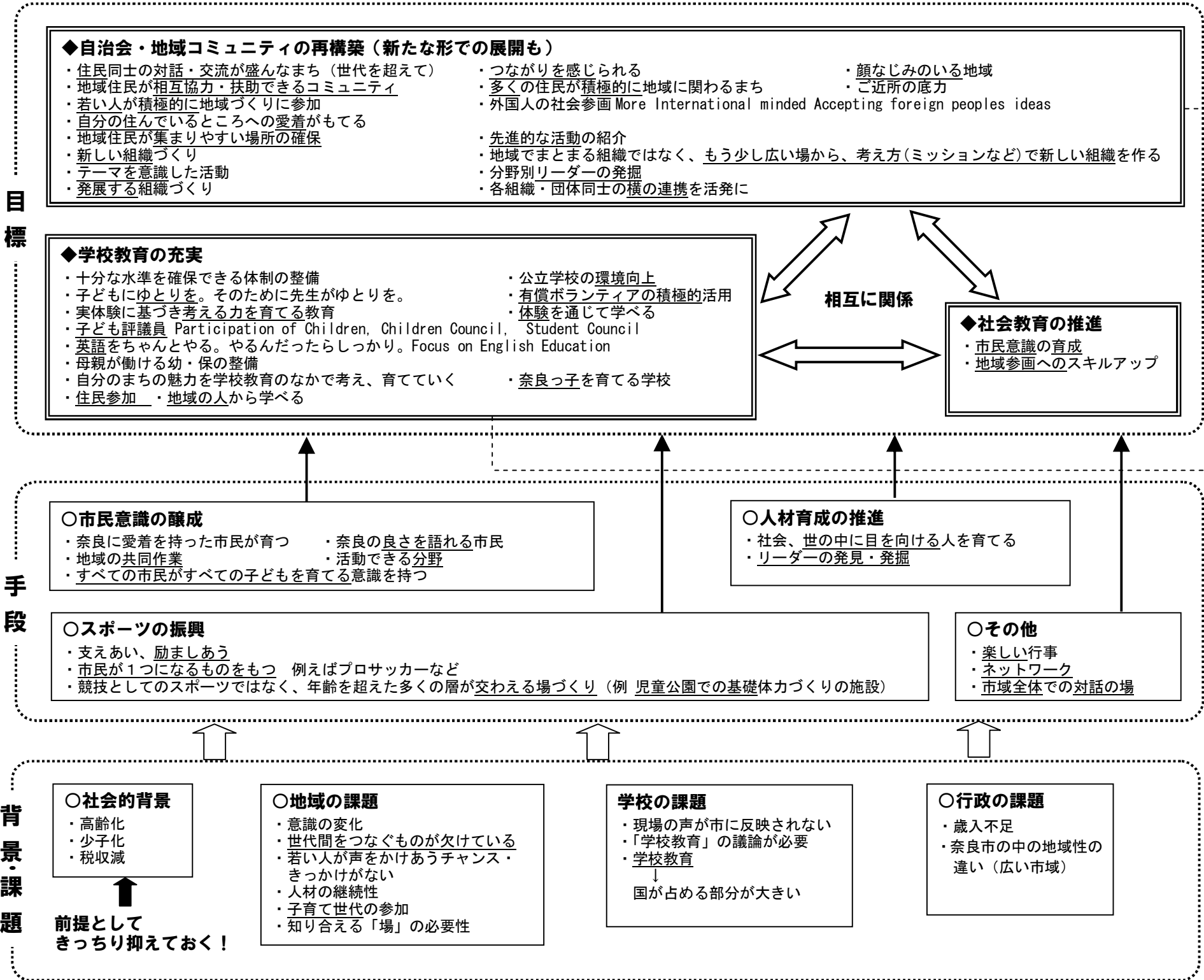
- ・日帰り客のキャッチ
- ・体験プログラム

次回の課題

- ① 宿泊
- ② 若者のプログラム
- ③ 街並みづくり
- ④ エコプラン
- ⑤ 市民の役割

注) 将来像の中の(何人)表記は提案にあげた人の数

テーマ「人を活かし、育むまちづくり」(仮)



第5分科会 住みやすいまちづくり

【参加者】**委員**北浦 由香、サマン ペレラ、四反田 喬典、
田北 ますみ、反田 博俊、中西 輝、
濱 恵介、松永 洋介 [北野 剛人]
TF山崎 亮 **市職員同席**吉村 武富

「住みやすい」の概念を居住性や利便性など一般的なものにこだわらず、奈良（市）が安全で美しく、個性的で誇りが持て、真に「持続可能な都市」になるための基本条件を考えた。

◆タイトル（案）：

持続可能な環境古都・奈良

◆サブタイトル（案）：

歴史と未来、都市と田園が共生する奈良

◆キーワード～目標概念

基本：過去・現在・未来の連続性「持続可能性」と人工と自然の調和「環境共生」を尊重することから見えてくる諸課題の解決を目指す。

・コンパクトシティ

脱・自動車の交通システム：マイカー規制、歩道・自転車道・LRTの整備、大規模SC規制
市街地の拡大抑制：逆線引き、ダウンゾーニング、地区計画

・美しい景観形成（歴史的町並み保存、無電柱化・電線の地中化、街路樹整備、高層建築物規制、
屋外広告物規制、建築物・工作物の色彩規制）

・都心と里山など地区間の交流（有機農業、食住近接、エコシティとエコビレッジ、緊急時援助）

・エネルギー自給（太陽光発電、太陽熱、バイオマス、ミニ水力、ミニ風力）

・福祉のまちづくり（ユニバーサルデザイン、バリアフリー）

・遅れていることがアドバンテージ（懐かしい未来、おちつき）

・持続可能性（住み継ぐ、都市は先人の遺産・未来世代からの預かり物）

・市民としての誇り（シビックプライド）の醸成

・地区ごとの特徴を活かす（世界遺産周辺地区、旧市街地の奈良町界限、西部新興住宅地、東部山間の里山地区、幹線道路沿線地区など）

第6分科会 市民と行政とのまちづくり

【参加者】委員 武村 俊宏、多田 充朗、田中 保夫、
村田 勝彦、元島 満義、渡邊 新一
[植田 正博] TF 六本木 晃夫

